

資料をご覧の皆さまへ

〈これまでの取り組み〉

2019年度～2021年度に、文部科学省委託事業「在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業」（略称：AG5）の協力校として、日本人学校等の関係機関と連携した特別支援教育に係る遠隔支援コンサルテーションに取り組んで参りました。

〈今年度からの取り組み〉

そして2022年度からは、AG5の後継事業となる文部科学省委託事業「在外教育施設の重点支援プラン」の協力校として取り組んで参ります。複数の研究計画のうち、本校は「日本人学校におけるICTを活用したインクルーシブ教育」への協力を行います。

〈本資料について〉

本資料は、2023年2月25日（土）にオンラインで開催された「遠隔支援コンサルテーション・事業報告会」の報告資料となります。

〈お願い〉

本資料は本校の昨年度の実践報告のために作成しています。質疑等については、原則としてお受けしておりません。ご了承ください。

事業報告会
②北京日本人学校および
筑波大学附属大塚特別支援学校

2023年2月25日(土)

発表時間 15分

筑波大学附属大塚特別支援学校

(担当：佐藤 義竹)

報告内容/資料の構成

内容

①

導入



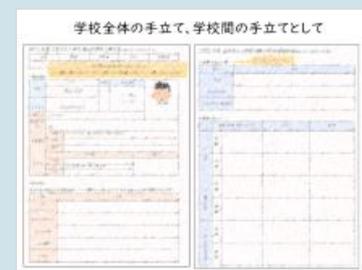
②

今年度のコンサルテーションの進め方



③

北京日本人学校の先生方の実践例



筑波大学附属大塚特別支援学校

支援部→2022年度～ 教務

センター的機能
インクルーシブ教育システム構築の推進



- ・文京区との連携事業
幼稚園・小学校・中学校等への相談業務等
- ・外部との連携
研修会等への協力

教育部

学級担任として



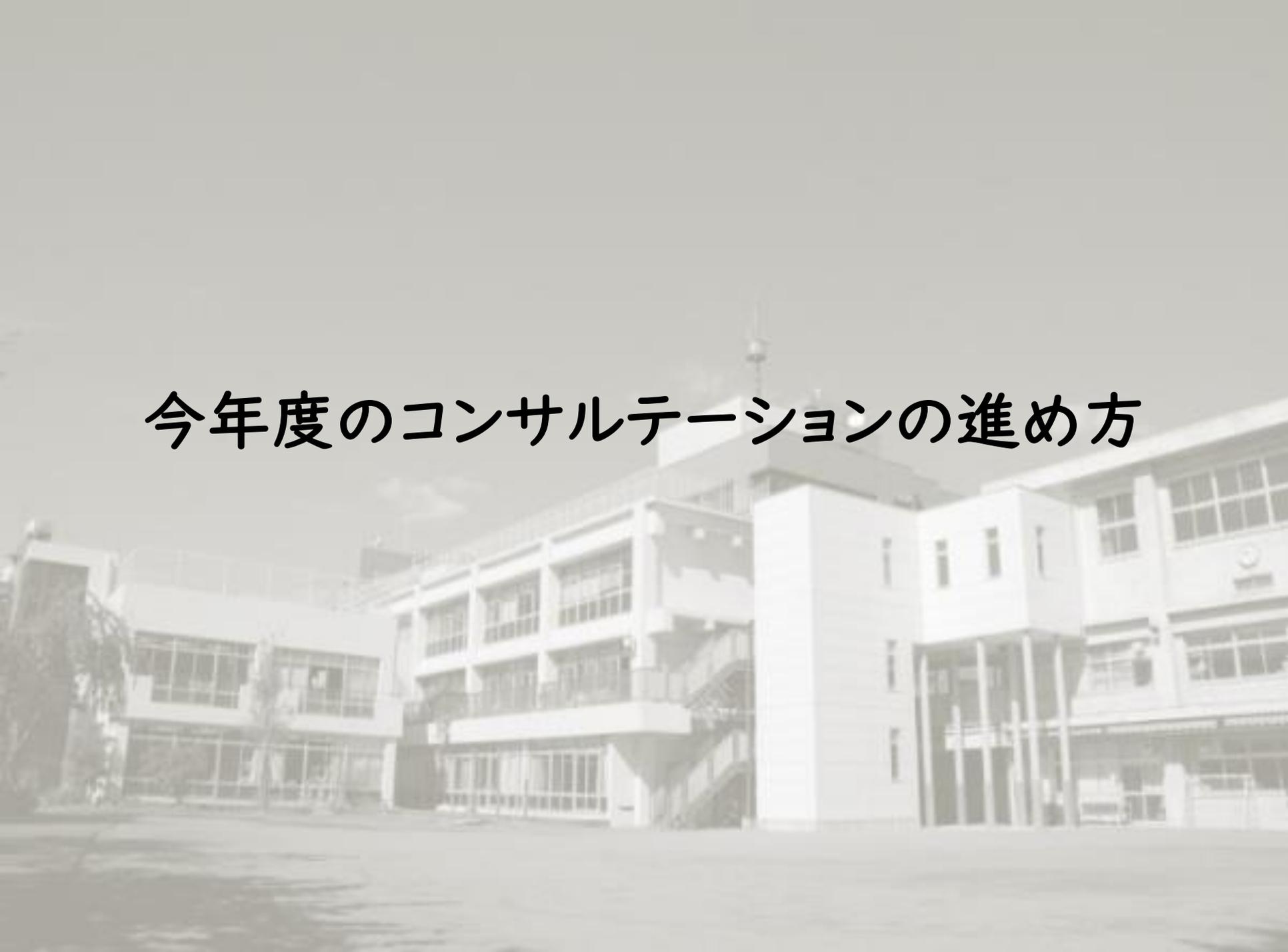
〈定員〉
幼稚部…10名
小学部…24名
中学部…18名
高等部…24名 合計76名

教育と研究
→特別支援教育への貢献

今年度の実施内容

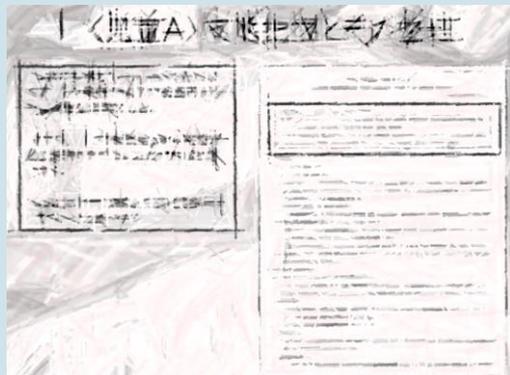
	日時(日本時間)	テーマ
①	6月23日(木) 16:30~	児童Aの支援方法を他の児童生徒のサポートにつなげるために
②	8月25日(木) 16:30~	保護者理解、保護者支援を含めた子どもたちへの支援
③	10月20日(木) 16:30~	個別の教育支援計画の作成について
—	11月5日(土)	合同研修会
④	12月22日(木) 16:30~	①保健室からの特別支援教育と教育相談 ②困り感を抱えている児童生徒への対応 (合理的配慮、児童生徒理解、教育相談について)
⑤	1月12日(木) 16:30~	新年度に向けた体験授業について
—	2月25日(土)	事業報告会

今年度のコンサルテーションの進め方

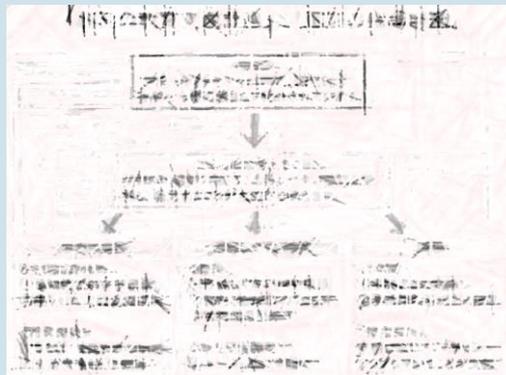


コンサルテーションで使用したスライドの一部

①6/23



②8/25



③10/20



④12/22



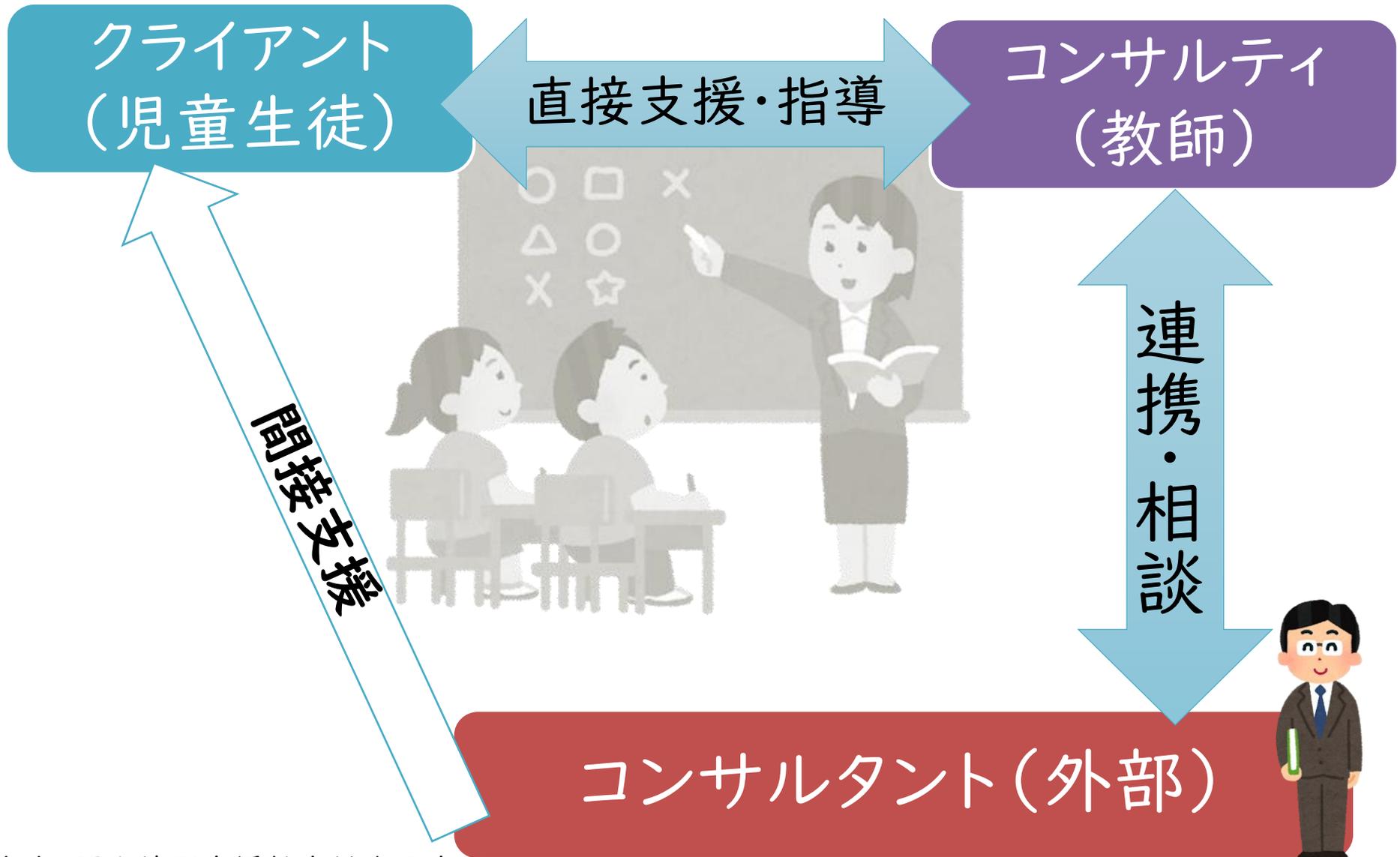
⑤1/12



→窓口となる先生との事前のやりとりを通して、毎回のコンサルテーションでは、スライド資料を画面共有しながら進めるようにしています。
(視覚化・見える化)

窓口となる先生を中心に、(両校で負担の少ない範囲で) 事前の情報共有をすることができました。より有意義なコンサルテーションに繋げるための大事なポイントとなりました。

コンサルテーション



遠隔支援コンサルテーション



公益財団法人
海外子女教育振興財団
Japan Overseas Educational Services

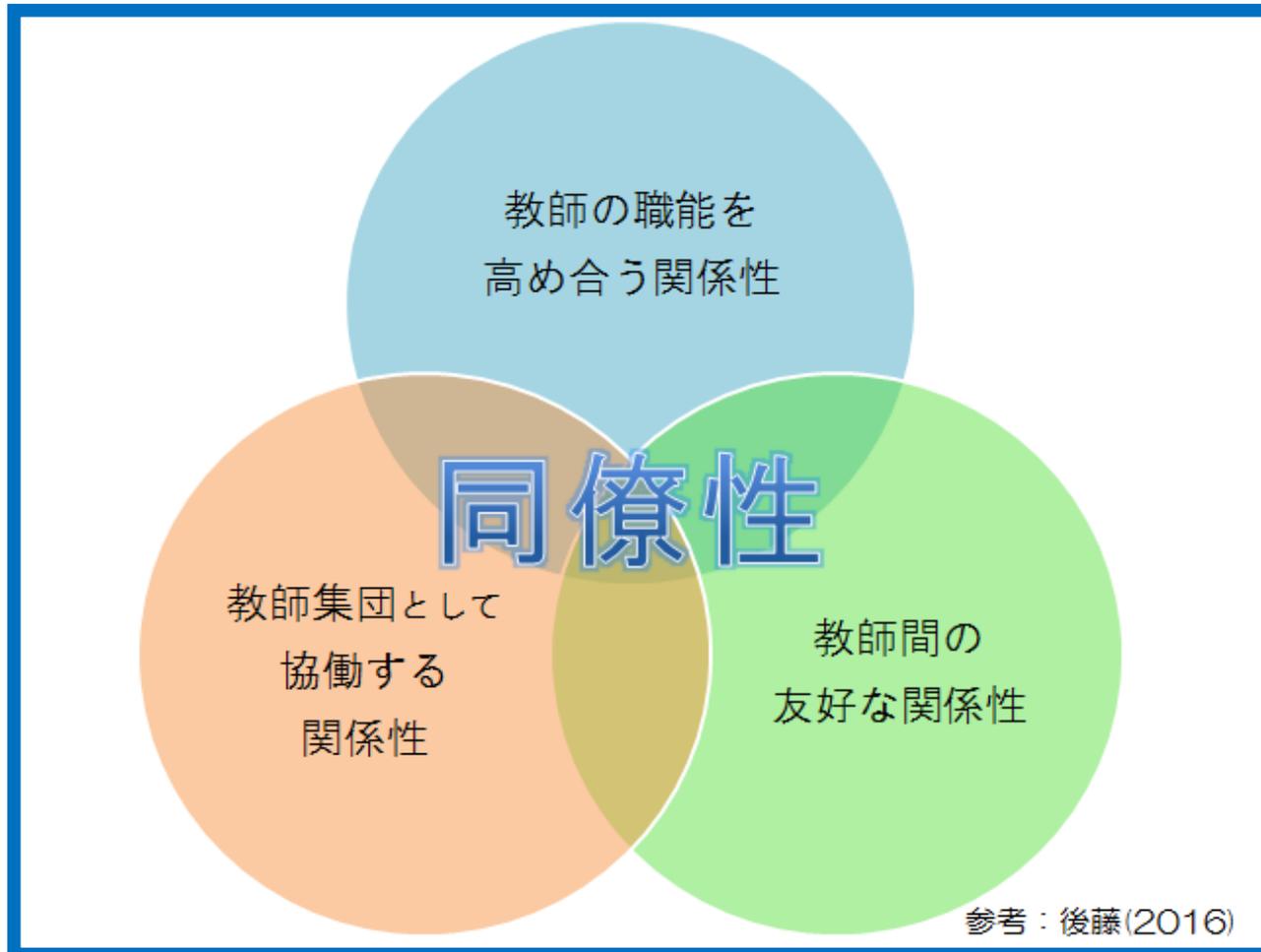


独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

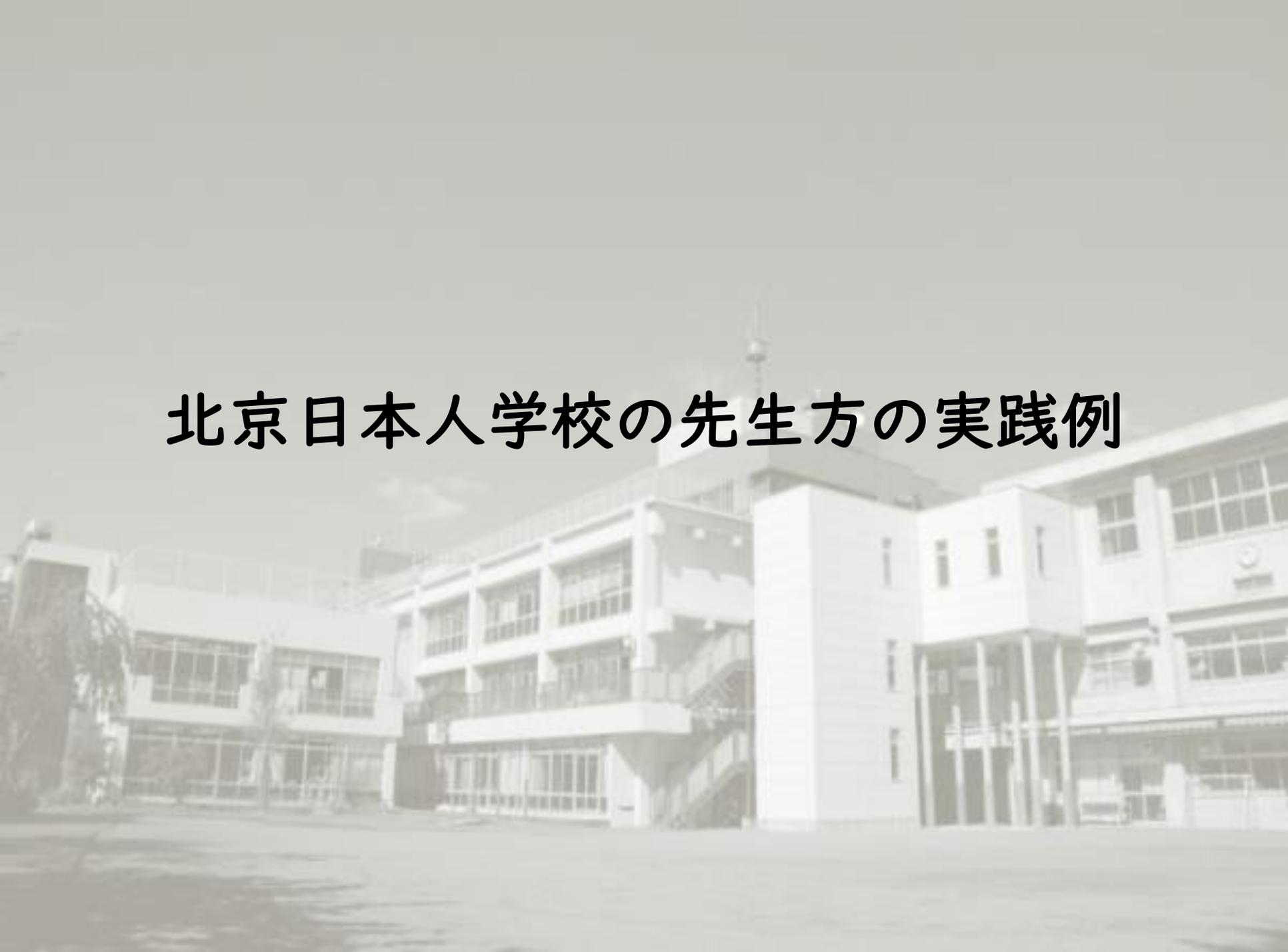


筑波大学附属大塚特別支援学校
School for the Mentally Challenged of Otsuka, University of Tsukuba

「お互いの立場や専門性を尊重し、客観的な視点から実践を振り返り、ポジティブな指導や支援を分かりやすい言葉で伝え合っていくこと」(筑波大学附属大塚特別支援学校支援部研究、2017)



北京日本人学校の先生方の実践例



「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」

個別の教育支援計画				
記入者 ○○養護学校 ○○○○ 記入年月日 平成18年3月8日				
所属学校	学 級	氏 名	ふりがな	
○○養護学校	小学部1年	
支援目標 ・小学部3年までに排泄の自立を目指す。 ・学校生活に慣れて、みんなと一緒に学習に取り組むことができるようにする。				
具体的な支援	家庭生活	支援機関 支援者 家庭 父母	支援内容 ・7:00、10:00、13:00、15:00、夕食後、入浴後、就寝前にトイレに誘う。トイレで排泄ができればほめる。 ・朝7時に起こし、学校の始業時間前に登校できるように車で送る。	結果・引継 ・毎日実施<継続> ・毎日実施<継続>
	余暇・地域生活	○○施設 地域生活支援コーディネーター ○○○○	・ショートステイ時のトイレ誘導と成功時の称賛、保護者への説明(誘導時刻:10:00、13:00) ・排泄自立に向けた情報提供	・夏休休業中ショートステイ11回実施 誘導・説明共に毎回実施<継続> ・支援会議にて情報提供(1回)<継続>
		△△施設 地域生活支援コーディネーター △△△	・ショートステイ時のトイレ誘導と成功時の称賛、保護者への説明(誘導時刻:10:00、13:00) ・排泄自立に向けた情報提供	・ショートステイ7回実施 毎回誘導実施 説明は実施せず <継続> ・支援会議、情報交換時に3回実施<継続>
	学校生活	○○養護学校担任 △△△、○○○○	・10:00、13:00のトイレ誘導と成功時の称賛、保護者への説明 ・時刻割カード(マーク、写真)による時刻割の提示	・毎日実施<継続> ・毎朝実施<継続>
	療養育機関○○○ 担当者 ○○○	・就学前の支援目標や内容、ポスター「乳幼児プログラムの指導内容」児童の様子について情報提供	・支援会議1回、情報交換2回<終了>	

(Aタイプ)

今年度の目標(長期目標)		主な指導の場	
学習面			
生活面			
社会面・ 保健医療面			
() 学期の取り組み			
指 導 計 画		指 導 結 果	
学習面・生活面・社会面		変 容 と 課	

個別の教育支援計画

- 他機関との連携を図るための長期的な視点に立った計画
- 乳幼児期から学校卒業後までの長期的に活用されるもの
- 関係機関や保護者と連携して作成

個別の指導計画

- 指導を行うためのきめ細かい計画
- 教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法を盛り込んだ指導計画
- 単元や学期、学年ごとに作成

学校全体の手立て、学校間の手立てとして

2022年度 北京日本人学校 個別の教育支援計画作成:〇〇(2022.10.20)

2022年度 北京日本人学校 個別の教育支援計画作成:〇〇(2022.10.20)

実態（今の姿）が事前に分かる

→ 事前準備ができる

→ 相談したり、具体的な対応方法を考えたり

⇒ 指導者も安心して備えることができる

“個に応じた”指導・支援



多種多様な
専門性や考え方



子ども観 指導観 教材観

...



手立て



つなぐ

Q. 手立てで何をつなぐか？

先生	(1) 支援方法(支援の視点) (2) 子どもの前向きな成長
子ども	(1) 分かりやすい環境 (2) 安心できる環境

手立てで支援をつなぐ

手立てで先生と先生をつなぐ